



学校だより 7月号

横浜市立日下小学校 令和4年 6月30日

夢に向かって ともに歩み 未来を拓く 日下小

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hishita>

「当たり前のこと」を「当たり前」に

校長 皆川 誠

連日30℃を超える厳しい暑さが続き、例年よりもかなり早い梅雨明けとなりました。学校では、6月20日にプール開きを行い、水泳学習が始まりました。新型コロナの影響により3年ぶりの実施となるので、1～3年生は、本校での最初の水泳学習となりました。4～6年生にとっても久しぶりとなるため、今年度は水泳学習時の約束事を身につけることと、泳ぎや水中での動きの基本を学ぶことを主にして学習を進めています。

さて、私が学校内を巡回していると、ふと目を奪われる場所があります。その一つが、昇降口の靴箱です。なぜなら、色とりどりの靴が、かかとを揃えて靴箱の縁にきちんと置かれており、素敵な模様のように見えるからです。

本校のスタンダードには、靴箱の使い方に関する記述はありません。ただ、1年生の靴箱には、「とん」「すう」「ぴた」という表示があり、このことを意識づけています。それが「当たり前」になると、学年が上がっても、言われなくても行えるようになってきます。本校の子どもたちは、その状態になっていることを感じ、嬉しくなっています。「靴を揃える」ことは、昇降口をきれいに見せるだけではありません。ちょっとしたことにも気を配れることに意味があるのです。勿論、ご家庭での躰がしっかりとされているからこそ、学校でもこうした姿を見せることができるのだと思います。

一つのことができるのと、他の場面にも波及します。上記のように、6月20日から水泳学習が始まっています。プールサイドに上がる前に上履きを脱ぐのですが、その靴がきれいに並べられています。水泳学習の様子を見にプールへ向かった時に、まず、その光景に驚かされました。そして、こうしたことができる子どもたちなので、「約束を守り、安全に学習できる」と確信しました。

「そんなことは当たり前のことだ。」と言われてしまえばそれまでですが、最近では、その「当たり前のこと」を、「当たり前」にできていないことが増えているように思われます。

日下小では、靴を揃えること・挨拶をすることなど、「当たり前のこと」を「当たり前」にできる子どもに育てていきたいと考えています。保護者や地域の皆様のご協力をお願いいたします。